

 シラバス参照

授業基本情報

講義番号	076051
授業科目	歯髓病態診断・治療学
担当教員（所属）	高柴 正悟 (07：歯学部)
学期	2017年度 Q：4学期
曜日・時限	木曜4
単位数	0.5
教室	第一示説室
ナンバリングコード	NDGD0DEDZ4004N
印刷用ページ	https://gs.okayama-u.ac.jp/campusweb/campusquare.do?_flowId=SYW4101101-flow&nendo=2017&shozoku=07&jikanwari=6051&sylocale=ja_JP
科目区分	専門科目
対象学生	4
必修・選択の別	必修
連絡先	(内線) 6675/stakashi@okayama-u.ac.jp
オフィスアワー	全体に関しては、火曜日17:00～、木曜日8:30～10:00（ともに、歯学部棟7F 歯周病態学分野） ★事前の連絡を、高柴まで本学のe-mail addressを用いて、行うこと（携帯メールは対応できない場合があります）。 各講義に関しては、各講義担当者へ確認してください。
学部・研究科独自の項目	E -3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 E -3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療
使用言語	日本語
授業の概要	歯髓疾患・根尖性歯周疾患の病態を生物学的な基礎に基づいて解説し、これらの疾患の病因、診断、治療法、ならびに予防法を教授する。
学習目的	一般目標（GIO）： 個々の患者の歯髓疾患・根尖性歯周疾患を適切に診断しそれに基づいて治療を行うために、歯髓疾患・根尖性歯周疾患の病態と病因、診査、診断、治療法、ならびに予防法を理解する。
到達目標	行動目標（SBOs）： 1. 歯髓疾患・根尖性歯周疾患の病態を細菌感染と生体防御のバランスの観点から説明できる（想起） 2. 根尖歯周組織破壊のメカニズムと治療に伴う治癒のメカニズムを説明できる（想起） 3. 歯種ごとに根と根管の解剖学的形態の特徴が説明できる（想起） 4. 歯髓疾患・根尖性歯周疾患の分類とそれぞれの疾患の特徴を説明できる（想起） 5. 各疾患の診査・診断と治療法について説明できる（想起） 6. 根管治療用器具の種類と使用法を説明できる（想起） 7. 臨床所見とX線所見に基づいて、その症例の診断ができる（解釈） 8. 診断に基づいて、基本的な治療計画を立案できる（問題解決） 9. 個々の症例ごとに診断に基づいた治療を行う習慣を身に付ける（態度・習慣）
授業計画	1 12月7日 歯内疾患・根尖性歯周炎の病態診断 歯内療法学の歴史と発展 高柴教授 2 12月14日 歯内疾患・根尖性歯周炎の治療 口腔内科学とのつながり 高柴教授 3 12月21日 歯内疾患・根尖性歯周炎の治療 生体反応と治癒の様式 小林助教 4 1月11日 病態診断から治療へ 治療の分かれ目 山本講師 5 1月18日 歯内疾患・根尖性歯周炎の治療1 解剖学を考慮した根管治療の必要性 大森講師 6 1月25日 歯内疾患・根尖性歯周炎の治療2 歯の移植・再植（内部吸収と外部吸収含む）海老沼助教 7 2月1日 歯内疾患・根尖性歯周炎の治療3 外科的歯内治療と非典型的な症例 海老沼助教 8 2月8日 歯内病態診断・治療学：試験 試験：「歯内療法学」をまとめる 高柴教授
授業時間外の学習（予習・復習）方法（成績評価への反映について）	

も含む)	
授業形態	(1)割合 講義形式：100%
使用メディア・機器	PowerPoint等を用いた視覚教材 学生はICT機器を用いて、資料収集（研究分野のHP等から）
教科書	講義中に適宜紹介する。 事前に、 http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~perio/bind2/cn11/pg60.html にある歯髓病態診断・治療学 Pulp Biology & Endodontologyの資料を予習しておくこと。 選択すべき教科書群； 1. 歯内治療学 第3版, 戸田忠夫（編纂），医歯薬出版，定価：10,800円 2. パーフェクト歯内療法, 高島憲二（著），デンタルダイヤモンド社，定価：10,800円 3. 歯内療法失敗回避のためのポイント47—なぜ痛がるのか、なぜ治らないのか，高橋慶壮（著），クインテッセンス出版，定価：13,650円 4. 楽しくわかるクリニカルエンドドントロジー，小林千尋（著），医歯薬出版，定価8,400円 5. エンドドンティクス21 歯内療法カラーアトラス，須田英明（編集主幹），永末書店，定価：本体5,700円＋税
参考書等	講義中に適宜参考書を紹介する。本講座が作成した実習書を各論講義にも用いる。講義の資料も配布する。また、図書館とInternetを利用して検索を行い、情報収集することも必要になる。
成績評価	毎回講義内容とその感想をレポートにして提出してもらうことによって授業に対する姿勢とともに個人の知識や思考能力を評価する。また、講義内容に関する筆記試験（単に知識を求めるものではないことに注意）を行う。試験60点、レポート30点、出席10点
担当教員の研究活動との関連	歯髓組織の炎症反応，根尖病変治癒のメカニズム，そして根管細菌叢の解析に関する研究を展開している。病態の理解を深める目的で一部の研究内容を講義に取り入れている。
受講要件	歯学部生は必須
他学部学生の履修の可否	否
教職課程該当科目	この項目は当該科目には該当しない
J A B E E と の 関 連	関連しない
備考／履修上の注意	実際の講義は，講座ならびに診療科の他のスタッフの協力を得て，それぞれのスタッフが得意とするトピックスについて講義することがある。

DP要素

人間性に富む豊かな教養【教養】	
目的につながる専門性【専門性】	70%
効果的に活用できる情報力【情報力】	20%
時代と社会をリードする行動力【行動力】	
生涯に亘る自己実現力【自己実現力】	10%
関連割合の合計	100%